

評価機構

2024

1

月号

NEWS LETTER

特 集

継続的な質改善活動の実現に向け、学び続ける場の提供
医療クオリティ マネジャー養成セミナーの紹介



人の安心、医療の安全 JQ
公益財団法人 日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care

2024年 年頭のご挨拶



公益財団法人 日本医療機能評価機構
代表理事 理事長 河北 博文

新年明けましておめでとうございます。平素より評価機構の事業に対する皆様のご支援に心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、昨年5月に5類に移行しており、だいぶ落ち着きを見せている状況です。これを乗り切ることができましたのも、医療関係者の皆様のご献身的なご尽力であると、改めて御礼申し上げます。

しかしながら、我々は新たな課題に直面をしています。国際的な紛争等による資源や食料の供給抑制等から国民生活への影響や地球規模での環境破壊が懸念されています。このままでは、経済的な不安を招き、私たち医療分野においても大きく影響を及ぼすことになると考えています。

また、AIやICTの発展、これからの人口減少や超高齢化社会を考えると、病院経営は大変厳しい状況が続くものと思われます。そこで、医療に携わる者は改めて「エッセンシャルワーカー」であることを再認識して業務にあたることが重要であると思います。

評価機構は、国民が質の高い医療を受けられるような社会の実現に向けて、引き続き病院への支援に一層の努力を惜しむことなく行ってまいります。

病院機能評価事業では、評価項目の改定において3rdG:Ver.3.0を開発し、昨年6月から運用を開始しております。なお、2022年4月の診療報酬改定において、第三者評価が「急性期充実体制加算」の必須要件、および「回復期リハビリテーション病棟入院料1・3」の望ましい要件として取り上げられたことなどにより、新規申し込みが大きく増加している状況です。

産科医療補償制度運営事業では、産科医療補償制度の見直しがあり、旧基準の個別審査で補償対象外となった児等に対する特別給付事業の受託について、厚生労働省より要請を受けております。今後、評価機構において、当該事業の実施について検討してまいります。

医療事故防止事業では、医療機関を対象とした医療事故情報収集等事業と、薬局を対象とした薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業を運営しておりますが、新たに歯科診療所を対象とした歯科ヒヤリ・ハット事例収集等事業の参加登録を昨年10月に開始しており、医療安全の推進を図ってまいります。

ICTを活用した医学教育に関する厚生労働科学研究では、医師国家試験CBT化に向けて、動画・音声を取り込んで大規模トライアル試験を実施しており、医学教育の充実と医療の質の向上に努めます。

また、その他評価機構の事業である教育研修事業、認定病院患者安全推進事業、EBM医療情報事業、医療の質向上のための体制整備事業を通じて、わが国の医療の質と安全の向上に貢献していく所存です。

今年も皆様のご支援とご協力を賜りたく、心よりお願い申し上げます。皆様のご健勝とご盛栄を祈念し、新たな一年が良い年でありますようにお祈り申し上げます。

継続的な質改善活動の実現に向け、学び続ける場の提供 医療クオリティ マネジャー養成セミナーの紹介

常務理事（教育研修事業担当）

橋本 廸生

1. はじめに

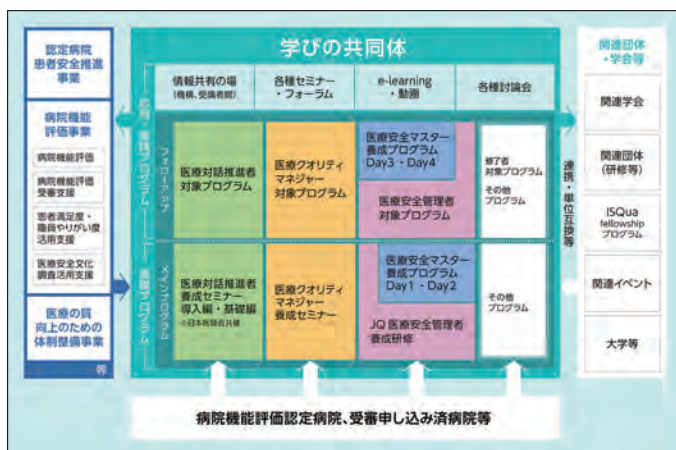
日本医療機能評価機構は病院機能評価をはじめとした種々の事業を通じて、全国における医療の質の向上と信頼できる医療の確保に貢献しています。

病院機能評価は病院の組織横断的な質改善活動を支援するツールとしてすでに多くの病院に活用いただいておりますが、その活動を維持し継続していくためには、病院等に所属する個人ひとりひとりが、自ら学びの場を通して医療の質・安全に関わる体系的な知識やスキルを習得し、実践に活かすことが欠かせません。

すなわち常日頃から医療の質の向上と医療の安全を希求し続ける組織文化を醸成するためには、それを支えている職員が学び続けることのできる場の確保が必要であり、本事業では「誰もが、いつでも、学ぶことのできる場の提供」を重要な柱ととらえ、力を入れています。

教育研修事業では、この学びの場である「学びの共同体 JQ-MAP」を下図のとおり構想しています。今回は、その根幹をなす基礎プログラムの1つ「医療クオリティ マネジャー養成セミナー」を取り上げ、ご紹介します。

学びの共同体 (JQ-MAP)



2. 医療クオリティ マネジャー養成セミナー

○医療クオリティ マネジャーとは

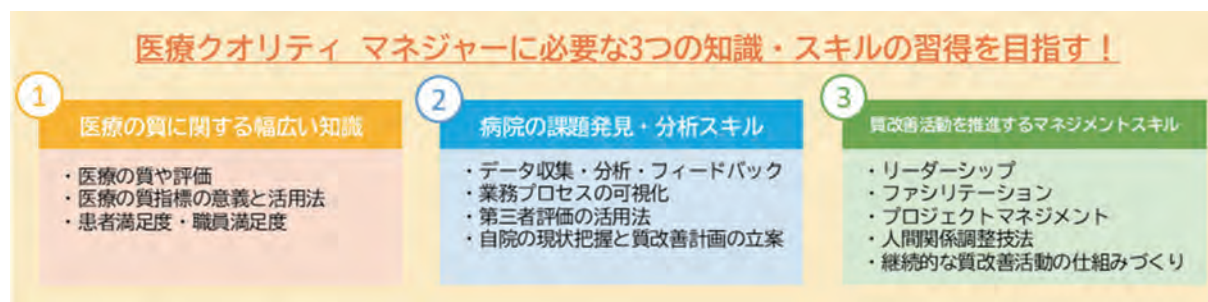
院内の質評価・質改善活動の推進役となる人材「医療クオリティ マネジャー」(QM) です。

病院の現状を把握し、優先して改善すべき課題の抽出や要因の解析を行い、設定した改善目標に向けて、自らが中心となって組織横断的に活動を推進します。



○セミナーで学ぶこと

院内で質改善活動を推進するために必要な知識・スキルを習得します。



○セミナーの特徴

できるだけ実践的に！

多職種でのグループワークを活用。病院に戻ってすぐに活動に活かせる。

組織としての視点を重視！

個人の努力より仕組みづくり

スキルを持ち帰ってもらう！

教育研修においても主体的な役割を期待

基礎プログラム修了後もフォローアップセミナーで！

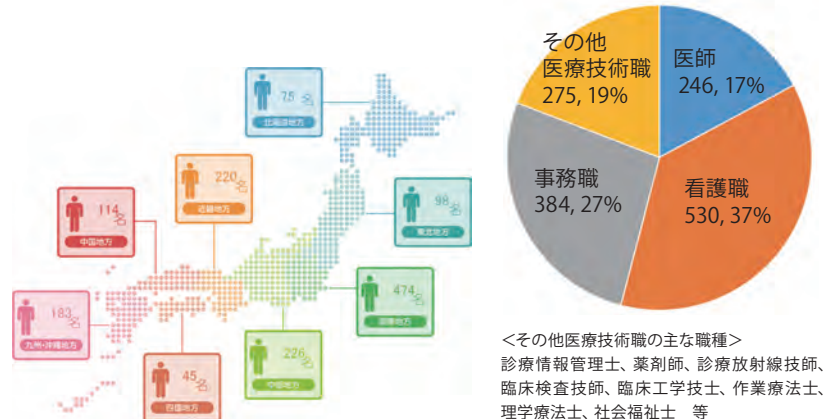
質改善活動の実践に役立つ知識・スキルを強化することができます。

○開催概要

開催	年2回
対象	病院における医療の質管理の実務責任者、またはそれに準ずる方（それを目指す方）※職位・職種は問いません
形式	e-learning + オンラインライブ4日（Zoomミーティング）
定員	各回、75名程度
参加費	認定病院又は受審申込み済み病院に所属の方…132,000円（税込） 上記以外の病院に所属の方…198,000円（税込）

○セミナー修了者の実績（2023年3月時点）

年度	年間開催数	修了者数
2012	1	54
2013	3	166
2014	3	182
2015	3	143
2016	3	142
2017	3	149
2018	3	133
2019	3	124
2020	2	52
2021	3	139
2022	2	151
合計	29	1,435

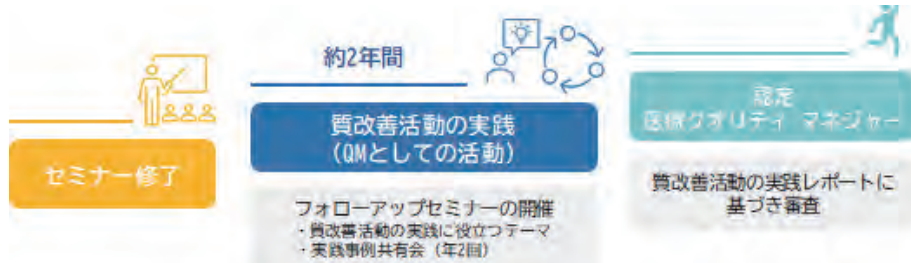


○修了者の声

- 医師** 質改善活動の実践イメージがつかめ、TQM推進室の立ち上げに役立った。
- 医師** 俯瞰的に病院の質改善を考えるきっかけになり、普段の業務においてもリーダーシップを発揮できるようになった。
- 看護職** 自分がプロジェクトリーダーとなった際のチーム作りのコツや院内データの活かし方を学べた。
- 看護職** 様々な地域の施設から幅広い職種・職位の方が参加しており、他の参加者との交流を通じて視野が広がった。
- 事務職** 多部門との連携が必要な場面での動き方がわかり、柔軟な発想で課題に取り組めるようになった。
- 薬剤師** 多職種でのグループワークの経験が、病院機能評価の受審やCOVID-19など組織横断的な対応を求められる際に役立った。

○認定・更新制度（セミナー修了後の流れ）

医療クオリティ マネジャーセミナー修了後は、約2年間、病院内で質改善活動に取り組んでいただきます。その実績に基づき「認定医療クオリティ マネジャー」の審査を行っています。修了者の皆様の活動を支援するためのフォローアップセミナーを開催しています。



認定マーク

認定を取得すると使用できます。

3. その他基礎プログラムの紹介

教育研修事業では、以下の基礎プログラムも提供しています。

●医療対話推進者養成セミナー [日本医師会と共催]

患者・家族と医療機関の職員の間で生じた様々な問題等について、対話を通じて協働的かつ柔軟に解決していこうとする、『医療コンフリクト・マネジメント』という考え方をもとに、両者の円滑な対話関係の構築に向けて、対話の橋渡し役となる人材を養成します。多職種と協働していく上での関係調整にも役立ちます。

年6回開催（各回定員80名程度）、開催形式は、e-learning + オンラインライブ2.5日とe-learning + 対面2日間の2種類あります。年間380名修了。修了者には、フォローアップセミナーを開催。

●JQ医療安全管理者養成研修

医療安全管理業務を通じて多職種と協働して医療の質と安全の推進に貢献できる人材を養成します。

年5回開催（各回定員70名程度）、e-learning + オンラインライブ1日。年間370名修了。修了者には、フォローアップセミナーを開催。

●医療安全アドバンスコース（医療安全マスター養成プログラム）

医療安全をより深く広く学び、実践力を高めたい方を対象に継続的な学びの場として、医療安全に関してよりレベルの高い知識と実践力を備えた「医療安全マスター」を目指す方を養成します。

Day1・Day2とDay3・Day4の2種類のプログラムを展開。いずれも年1回開催（各回定員50名程度）し、オンラインライブにより開催（一部の課程で、e-learning併用します）。年間各40名が修了。

⇒各研修・セミナーの日程・詳細・お申し込み

教育研修事業ホームページ (<https://jq-edu.jcqhc.or.jp/>) をご覧ください。



■ 診療ガイドライン作成に関する意見交換会を開催します（EBM医療情報部）

診療ガイドラインを効率的に作成し利便性の高い形で公開する、それを旨としたツールが世界中で開発されています。2024年2月17日（土）に開催する「診療ガイドライン作成に関する意見交換会」では「診療ガイドライン×ICT ―利便性の高い診療ガイドラインの作成と活用に向けて―」と題して、このようなツールを用いて実際にガイドラインを作成したグループの代表者に講演していただきます。代表的なツールとしては、Minds診療ガイドライン作成マニュアルのテンプレート、MAGICappや GRADEpro GDTなどがあります。詳細は下記の開催概要をご覧ください。EBM普及推進事業（Minds）では毎年このような「意見交換会」を実施しています。昨年度の意見交換会の様子もサイト上で公開しています。ぜひご覧ください。

○第26回 診療ガイドライン作成に関する意見交換会 開催概要

テーマ：診療ガイドライン×ICT ―利便性の高い診療ガイドラインの作成と活用に向けて―

日 時：2024年2月17日（土）14：00～16：30

方 法：Zoomによるオンライン開催

対象者：診療ガイドライン作成者

詳細は、Mindsガイドラインライブラリ（<https://minds.jcqhc.or.jp/>）およびMinds意見交換会専用サイト（<https://ebm.jcqhc.or.jp/>）をご参照ください。

■ 医療の質向上に向けた質指標活用の施策について（評価事業推進部（QI担当））

医療の質向上のための体制整備事業（厚生労働省補助事業）にて検討を進める「医療の質指標の活用に向けた施策」について紹介します。

「全国で共通して計測が求められる質指標（9指標）」の設定

全国の病院が医療の質向上に向けて質指標を活用できるよう、病院の規模・機能によらず重要な領域である「医療安全」「感染管理」「ケア」に関連した質指標（9指標）を設定しました。本指標は、2021年度に策定した「医療の質指標基本ガイド」に準じて選定し、昨年度実施した「医療の質可視化プロジェクト」での実績をふまえて設定しました。

*全国で共通して計測が求められる質指標（9指標）

https://jq-qiconf.jcqhc.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2023/06/reizi_shihyo_v1.0.pdf



標準化されたデータ（DPCデータ）を活用した計測方法の検討

計測における負担軽減の観点から上記9指標の活用を普及させるための施策として、DPCデータを活用した質指標の計測方法について検討しました。なお、本検討結果は国の行政機関においても議論されています。

*DPCデータを用いた例示指標の計測に係る課題整理・検討結果報告書

https://jq-qiconf.jcqhc.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2023/09/WG_keisoku_report_v1.0_fin.pdf



患者中心性指標の検討

主な患者中心性指標には患者満足度がありますが、本事業では、標準化された調査票がある、改善活動につながりやすいなどの観点から、近年、国際的な主流となりつつある患者経験調査(Patient Experience:PX)に着目し、検討を進めています。

上記を含めた各種検討は、原則公開で開催する「医療の質向上のための協議会」で行っていますので、ぜひご視聴ください。

*医療の質向上のための協議会

<https://jq-qiconf.jcqhc.or.jp/council/>



イベント情報

各種セミナーをWeb配信（録画型）やウェビナー（リアルタイム型）等で提供しています。詳細・お申し込みは、下記URLもしくはQRコードからWebサイトにアクセスしてご確認ください。

	事業	開催日/視聴期間	イベント名
動画配信	評価	お申込みから2年間	病院機能改善支援セミナー【項目編】
動画配信	評価	お申込みから2年間	病院機能改善支援セミナー【審査当日編】
動画配信	評価	お申込みから2年間	病院機能改善支援セミナー【一般病院3】
現地開催	評価	2024年2月20日	第2回 病院機能改善支援セミナー【総合】 (開催地：東京)
動画配信	QI※1	2023年7月4日～無期限	第4回 医療の質向上のためのコンソーシアム
Web開催	QI※1	2024年1月24日 14：00～16：00	第17回 運営委員会※2 (医療の質向上のための協議会)
Web開催	QI※1	2024年3月13日 13：30～15：30	第18回 運営委員会※2 (医療の質向上のための協議会)
Web開催	EBM	2024年2月17日 14：00～16：30	第26回 診療ガイドライン作成に関する意見交換会

※1：QIは「医療の質向上のための体制整備事業」の略称です。

※2：公開の会議のため、どなたでも傍聴可能です

病院機能評価事業のイベント情報

https://www.jq-hyouka.jcqhc.or.jp/event_calendar/



認定病院患者安全推進協議会

<https://www.psp-jq-jcqhc.or.jp/>



EBM普及推進事業 (Minds) Mindsガイドラインライブラリ

<https://minds.jcqhc.or.jp>



医療の質向上のための体制整備事業 (QI)

<https://jq-qiconf.jcqhc.or.jp/>



QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です

患者安全推進ジャーナルのご案内 (教育研修事業部)

評価機構の認定病院患者安全推進協議会が発行している機関誌です。

12月発行のNo.74の特集「患者・家族とのコミュニケーションと意思決定支援」では、よりよい医療者－患者関係を構築するために必要な知識や方法に関する考え方や、インフォームド・コンセントおよび共同意思決定(Shared Decision Making: SDM)にかかわる取り組みを紹介しています。

患者安全推進ジャーナルのご案内

●会員病院(毎号3冊を無料で送付します)

追加の冊数をご希望の方は、認定病院患者安全推進協議会のホームページより会員サイトにログインしてお申し込み下さい。会員価格は、1冊あたり1,100円(税込)です。

また、毎回、一定の冊数の追加をご希望の場合は、予め追加冊数を1冊単位で指定していただく「年間追加購入」のお申し込みができます。10冊単位で年間追加購入をいただく場合は、最大50%の割引となります。

詳細は、協議会ホームページをご覧ください。

(<https://www.psp-jq.jcqh.or.jp/journal/>)

●会員外の病院(1冊あたり3,300円(税込))

評価機構ホームページ「出版・ダウンロード」からお申し込みください。

病院機能評価データブックのご案内 (評価事業審査部)

病院機能評価事業では、病院機能評価を受審した病院の書面審査の情報や、審査を通じて得られたデータの内容、評価Sとなった好取組事例をまとめたデータブックを定期的に発刊しています。

このたび、2022年度に評価項目体系3rdG:Ver.2.0により認定の可否を決定した383病院の情報をまとめた「病院機能評価データブック2023」を発刊しました(1セット:4,950円(税込))。

是非、医療の質向上に向けた取り組みの資料としてご活用ください。詳細は、以下の病院機能評価事業ホームページをご参照ください。

<https://www.jq-hyouka.jcqh.or.jp/tool/databook/>

医療安全情報の公表 (医療事故防止事業部)

医療事故情報収集等事業では、以下の医療安全情報を提供しました。

●No.204

「人工呼吸器の吸気側と呼気側の回路接続間違い」
(11月)

●No.205

「別の患者の眼内レンズの挿入」(12月)

詳細は、本事業ホームページからご覧ください。

<https://www.med-safe.jp/>



No.204 (1ページ目)



No.205 (1ページ目)

編集後記

新春の候、皆さまいかがお過ごしでしょうか。新年が始まり、新たな気持ちでスタートを切ることができました。寒さが身にしみる季節ですが、冷たい空気を吸い込むと心地よさを感じることもあります。年末年始の忙しさが少し落ち着いたこの時期、自分へのご褒美を考えてみてはいかがでしょうか。寒さを乗り越えて訪れる春を想像しながら、冬の日々を楽しんでいきましょう。皆さまの笑顔があふれる一年となりますように。

評価機構

NEWS LETTER

2024年1月1日発行

発行：公益財団法人日本医療機能評価機構(略称：評価機構)

発行責任者：河北 博文

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1丁目4番17号 東洋ビル

TEL：03-5217-2320(代) / (編集：総務部情報企画課)

<https://jcqh.or.jp/> e-mail: info@jcqh.or.jp

本誌掲載記事の無断転載を禁じます